

令和2年度

全中道研 会報

No. 1 令和2年11月25日

全日本中学校道德教育研究会

道德教育の発展を目指し
～地域との懸け橋
としての全中道研～



令和2年度 全日本中学校道德教育研究会

会長 吉田 修

本年度から全日本中学校道德教育研究会の会長を務めることになりました東京都府中市立府中第九中学校長の吉田修です。今年一年間よろしくお願いいたします。

はじめに、令和元年度末からの新型コロナウイルスの影響により全中道研理事会を開くことができず、来賓、顧問、理事の皆さまと直接お会いして話をする機会が奪われてしまったことに対し残念な気持ちでいっぱいです。会長としてこの難局を乗り越えるために菅野前会長、月田事務局長と協議を重ねながらコロナ禍での全中道研の在り方を模索しているところです。例年とは異なる形にはなりますが、北海道をはじめとする九地区のブロック長（副会長）の皆さまと連携し、絆を深めるための取組を考え、現在進行しています。さらに、ブロック長を中心にそれぞれの県の理事の方々の連携を図ることができるように計画を練り進めております。

さて、令和元年度から「特別の教科 道德」が中学校で全面実施となりました。「考え、議論する道德」への質的転換を図るために、全国の中学校では道德科の指導方法や評価方法を含めて、熱心な取組がなされてきました。

昨年度、全中道研研究大会鳥取大会では、教科化元年ということもあり多数の参観者のもと「考え、議論する道德」「主体的・対話的

深い学び」に基づいた工夫を凝らした研究授業を実施し、課題別研究協議会では活発な討議が行われました。道德教育の「要」である道德科の授業と道德教育を推進する地域の代表の皆様の情熱がひしひしと感じることができる研究発表大会でした。この情熱の灯をコロナ禍であっても、持ち続け推進する役割が全中道研の役割であると自負しております。

新学習指導要領には「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養、生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」の3点が挙げられています。「人間性等の涵養性、未知の状況に対応できる」の言葉にあるように道德教育に重きを置いた非認知的能力の育成が重要であると考えられます。

今回の新型コロナウイルスの影響により未知の状況に適切な対応が求められています。様々な考えが渦巻く中、一人の人間として自分を含めた社会全体が幸せになることを考えていくことが必要です。この予測困難な時代を生き抜くために、生徒一人一人が他者とともに未来社会の創り手として、学びに向かう力を高め、課題や困難の解決策を考えよりよい生き方につないでいく教育活動の質の向上が求められています。子供自身が未来の自分を想像し、その実現に向けて、身近なところから考えを発展し社会、世界がどうあるべきかを考え抜き自分事として考えることができる力を養うことが大切です。そのために、学校は道德教育を柱に全教師が協力し道德科の充実と発展を図ることが必要になります。

最後に全中道研を日頃から支援していただ

いている上廣倫理財団、石橋財団、関係者の皆様に感謝申し上げます。

【副会長会報告】 事務局長 月田 行俊
10月31日（土）午前10時より、オンラインによる副会長会を行いました。
内容は、次の通りです。

- 1 会長あいさつ
- 2 情報交換
 - (1) 副会長自己紹介及び各ブロック・県における令和2年度の状況
 - (2) 来年度以降の実施方法について（開催県における検討状況）
 - ・令和3年度全国沖縄大会
 - ・令和4年度全国山形大会
 - ・令和3年度埼玉大会及び令和4年度群馬大会
 - (3) 今後の方向性（コロナ禍における新たな大会運営の方向性について）
 - (4) その他
 - ・上廣倫理財団の助成金について
 - ・令和2年度の参与について
 - ・道徳実践事例集第8集について
 - ・令和2年度の予算及び分担金の扱いについて

1 会長あいさつ骨子

本年度は昨年度末からの新型コロナウイルスの影響で令和元年度第3回理事会、令和2年度第1回理事会、また各地域での研究発表会が相次いで中止になっている。そんな中、副会長の皆さまと直接ではないが、カメラ越しにお会いできてうれしく思っている。コロナ禍であっても道徳教育への熱い思いは我々一緒だと思っている。

さて、これからの道徳教育の在り方を全日本中学校道徳教育研究会としての私の考えを述べさせていただく。

一つは、組織の絆を強くするということである。全国、ブロック、各県の情報を共有し

互いに高め合う組織にしていきたい。そのためにホームページの積極的活用を行っていきたいと思っている。また、今回の会議のように、必要に応じてオンライン会議の設定ができればと考えている。

二つ目は研究大会の充実である。コロナ禍で研究大会を行えるか不安を抱えてながら運営を行っている理事の皆さまも多いと思う。研究を止めることは、道徳教育の衰退につながるのではと思う。「特別の教科 道徳」になり全国的に道徳教育の重要性が見直され、各地域で取り組んでいる最中でのコロナウイルスである。それにより道徳科における研究活動を止まらないようにすることが大切だと考えている。全中道研としても、それぞれの地域で工夫を凝らし道徳教育を推進できるように後押ししていきたいと考えている。会場に人を招くことができないならば、事前に録画等を行い後日配信する方法もある。地区の事情を鑑み止めることなく進めることを考えていただければ幸いである。

最後に、全中道研会報を年に1回発行しているが、地区情報という形で皆様にご協力いただこうと思っている。その時は協力をお願いしたい。会報を通して、諸先輩方へも今の全中道研、今後の全中道研の在り方を広く知っていただけるよう力を尽くしたい。

2 情報交換

(1) 副会長自己紹介及び各ブロック・県における令和2年度の状況

【北海道】

道内17の支部によって各地区の活動が進められているが、コロナ禍の影響は避けられず、どの支部でも活動の中止や規模の縮小を余儀なくされ、会員相互の交流を深める活動は困難な状況となっている。

そんな中、何とか会議のオンライン化など



の工夫により、今年度の研究会の組織を立ち上げ、徐々に研修・研究体制を整えつつある。

今年度予定していた、第55回大会は、昨年度より着々と準備を進めてきたところであったが、やむなく中止を決定した。

【東北】

今年度のブロック大会を青森で行う予定でいたが、コロナの影響により中止とした。

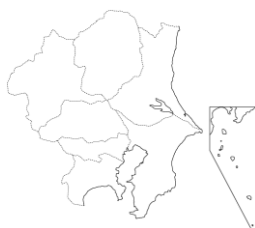
東北ブロックの各県の情報共有についても十分できていない状況である。



【関東甲信越】

関東甲信越ブロック大会は、千葉大会を予定していたが、中止とした。

それに変わるものとして、紙面での発表を計画しているところである。



【東京】

これまでの総会等についてはWeb上で行ったり、回数を減らして研究部会を開催したりしている。調査研究は例年とほぼ変わらない



形で実施する。1月に計画している部員総会・研修会や2月の研究

発表会は、3密を回避しながら、参加人数を絞り込む、ワークショップ形式の取組を導入する、公開授業は行わず、研究発表会・講演会として行うなど、例年とは異なるやり方で実施する予定である。

【東海北陸】

石川県の場合は、各地区単位で県の指定を受け、各校で研究を行っている。発問の工夫や有効なグループ活動、ゲストティーチャーを招くなど地域連携を通して、「考える道徳」を推進している。2～3学期中に各地区で工夫して研究



発表を行う予定である。

【近畿】

奈良県については、小中合同で定期的に行っている。県内に39市町村があり事務局と連携して取り組んでいる。

近畿ブロックの大会は中止したが、紙上発表として研究大会冊子を作成した。

また、会場校は校内授業研究会として、予定通りの期日に実施し、奈良県、川西町及び奈良県道徳教育研究協議会より指導助言を受ける。成果は、報告冊子に掲載する予定である。



【中国】

県単位の研究発表会については、開催を苦慮している。市単位の大会でも中止しているところがある。来年度のブロック大会の開催に向けて、各県ごとに研究を行っているところである。



【四国】

本来であれば、29・30日に高知大会が小中合同で行われるところだったが、中止とした。



この件について皆様にご理解いただいた。

それに代わって、県内のみで実施し、257名の方が参加され、飯塚調査官にもお越しいただいた。

【九州】

ブロック大会である大分大会は中止とした。他の大会についても中止、もしくは延期となっている。令和2年度の前期は、人が集められない状況であったが、後期は、人数を制限するなどして集まる等の工夫をしているところである。



(2) 来年度以降の実施方法について

・令和3年度全国沖縄大会

「公開授業の実施が困難」

「全国各地からの参加者が見込めない」「感染拡大により大会直前に中止になることもある」等の理由から、全国大会の意義を踏まえ、中止と判断せざるを得ないとする。理事会等での協議で検討願いたい。



・令和4年度全国山形大会

東北ブロックとしては、福島県が参加できていない。昨年度は山形県に事務局長(現会長)にきていただき、全国大会の準備を始めたところである。

しかし、コロナの影響で、様々な会議ができていないことなどは、沖縄県と同じような状況であるため、難しい。予算上の見通しも立っていない。



・関東：埼玉大会(令和3)・群馬大会(令和4)

「人としての生き方についての考えを深め、よりよく生きる児童・生徒を育てる道徳教育の創造」と題し、令和3年10月22日に埼玉県幸手市立幸手中学校を会場に実施する予定である。

しかし、コロナの状況によっては実際にできるかは未定である。会運営を工夫する必要もあると考えている。

群馬大会については、実施に向けて準備検討中である。



(3) 今後の方向性

ホームページ(HP)をリニューアルし、発信力を高める、ホームページを活用した全国大会運営を検討

新型コロナウイルス感染症が収束するまでの当面の間は、開催地域に参集しない方法で全国大会を実施する。

- ① 全中道研HPをリニューアルし、メンバー登録した方に一定期間公開する。
- ・開催地区の公開する予定である中学校で、授業を録画し、HP上にアップする。

授業公開

第1学年

○組	主題〇〇〇〇(A1)	教材〇〇〇〇	<指導案>	<動画>
○組	主題〇〇〇〇(A1)	教材〇〇〇〇	<指導案>	<動画>
○組	主題〇〇〇〇(A1)	教材〇〇〇〇	<指導案>	<動画>

第2学年

○組	主題〇〇〇〇(A1)	教材〇〇〇〇	<指導案>	<動画>
----	------------	--------	-------	------

【HPイメージ】

※ 公開授業に対する質疑等を行いたい場合は、メール等に対応することを検討

- ② 開閉会行事については文書をアップする。
- ・会長・実行委員長あいさつ、祝辞(必要に応じて)、基調提案(必要に応じて)、功労者紹介、次期開催地区あいさつ等を閲覧できる状態にする。

あいさつ

- 1 会長あいさつ
- 2 開催地区(沖縄県)あいさつ
- 3 来賓あいさつ(必要に応じて)
- 4 基調提案(必要に応じて)

【HPイメージ】

③ 課題別分科会

- ・紙上での提案とし、質疑については、何らかの形で提案者とやりとりできる環境を整え、期限を決めて実施する。
- ・助言者については、提案者と十分検討した上で、公開期間の後半に文書でアップする。

課題別分科会

第1分科会「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

提案1 テーマ 学校名 氏名 提案内容 <質問>

提案2 テーマ 学校名 氏名 提案内容 <質問>

第2分科会「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

提案1 テーマ 学校名 氏名 提案内容 <質問>

【HPイメージ】

④ 指導講話・記念講演については、可能であれば、動画または文書でアップする。

⑤ 大会紀要・大会記録

- ・開催地区に、参集することができないため、その地区の特色等を紹介するページなどを増やすことも考えられる。
- ・HP上にアップしていることから、大会紀要はそれで代替し、質疑等を盛り込んだ大会記録を充実させ、希望者に郵送するなどの方法を検討する。
- ・大会日時も会場を押さえる等の必要がなくなることから11月以降でも実施できる。

オンラインを活用した役員・理事会開催

- ・副会長会で話題となった内容を、各ブロックのオンライン会議を開催するなどして、周知を図ることで、活性化を図ったり、理事会もオンラインで実施することなどを検討したりする。
- ・令和2年度の第3回役員・理事会は東京で実施する計画としているが、場合によっては、オンラインで実施することも視野に入れる。

会報の発行回数を増加

これまでは、年1回の発行だったが、少なくとも4回は発行し、本会の連携強化を図る。

【発行計画】

会報 No. 1 : 11月中旬をめど

(担当) 会長・事務局長(副会長会報告)

会報 No. 2 : 11月下旬をめど

(担当) 会長・副会長

(四国・中国・北海道)

会報 No. 3 : 1月下旬をめど

(担当) 会長・副会長

(九州・関東甲信越・東海北陸)

会報 No. 4 : 3月下旬をめど

(担当) 会長・副会長(東北・近畿・東京)

(4) その他

○上廣倫理財団の助成金について

令和2年度は、コロナによる影響から、北海道、関東甲信越、東京、近畿、中国、四国の6ブロックが申請し、東北、東海北陸、九州の3ブロックが申請を見合わせた。

次年度は、すべてのブロックで申請できるように検討していただきたい。

○令和2年度の参与について

2月29日付文書で「顧問名簿、参与名簿作成のための情報提供」の依頼が、第3回や役員・理事会資料とともに送付されている。

令和元年度をもって、全中道会長職・関中道会長職をご勇退された方が、全中道顧問、関中道顧問となる。

また、全中道研副会長職を令和元年度にご優待された方は全国参与という立場となる。

全中道研事務局から大会等の資料を提供する際に、連絡先が必要となるため、該当する方の情報提供をお願いしたい。

○道徳実践事例集第8集について

全中道研では2年に1回、実践事例集を作成して皆様にお配している。令和2年度の第3回理事会で第8集を配れるように計画をしている。

事例集作成に際しては、発表県や助成を受けている地区から掲載の依頼をさせていただくので、ご協力をお願いしたい。すでに、第1回理事会資料で周知させていただいているが、まだ集まっていないため、対応についてよろしくお願いしたい。

なお、この事例集は無償で配布し、例年よりも増刷する計画がある。

当初計画では11月中旬に原稿締め切りとしていたが、**12月24日**までに変更とする。

○令和2年度の予算及び分担金の扱い

第1回理事会資料にあるとおり、予算案を提出し、承認をいただいた。

しかし、コロナの影響で、実施できない事業もあり、実践事例集の増刷やその配送費、ホームページのリニューアル等に係る経費を増やすなどの対応をして予算を施行したいと考えている。

< あとがきにかえて >

副会長会を開催したことで、日本全体が、新型コロナウイルス感染症による影響に苦慮しながら、それでも教育活動を展開していることが分かります。

この副会長会でも、「コロナだからできない」ではなく、「コロナだからこそ何をするのか」という視点で、教育活動を見直すことが大切ではないかという話がありました。

コロナ禍で内面に何らかの影響があると思われる時期に、道徳の授業の中で周りとの関係性や自身について考えることができたのは良かったと思います。

といった保護者からの声もあります。

教科化2年目、皆さんと情報共有しながら今後とも進めていくことができたと思っています。

<全中道研ホームページをリニューアルしました>



【新設】各ブロックの情報ページ
Member ページ
(一定期間閲覧できるページとします)

<https://zencyudo.webnode.jp/>